

橋梁長寿命化修繕計画

橋梁長寿命化修繕計画の内容

橋梁は長い年月の間、人や自動車の荷重を受け続けます（外力による劣化・損傷）。また、コンクリートや鉄の塗装なども永久ではなく、自然に劣化してゆくものです（経年劣化）。道路管理者が行う維持管理では、これらの劣化や損傷を、できるだけ未然に防ぐと同時に、維持管理にかかるコストを引き下げることが要求されます。

現在では、多くの研究から修繕などの対策は、劣化や損傷の進行が早い段階で行うことが効果的で、かつ経済的であるということが分かっています。これは、人の健康管理に非常によく似ています。このため、“悪くなってから治す”という待ちの姿勢ではなく、橋梁を点検し、劣化や損傷の原因を内在している時点から発見し、予防的措置をとることが、維持管理のコストを引き下げただけでなく、災害や事故を未然に防ぐことにもつながります。

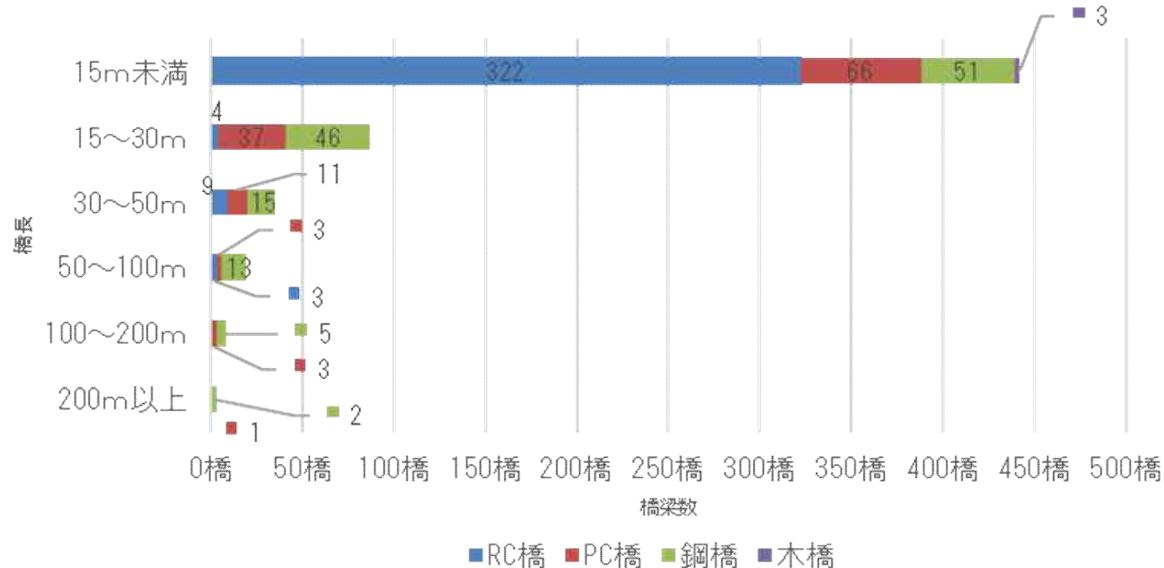
そこで、橋梁の点検や補修の時期などについて方針を定めたものが橋梁長寿命化修繕計画です。

長寿命化修繕計画の対象とする橋梁

長寿命化修繕計画の対象橋梁は、南丹市の市道に架かる橋長2.0m以上の橋梁595橋です。

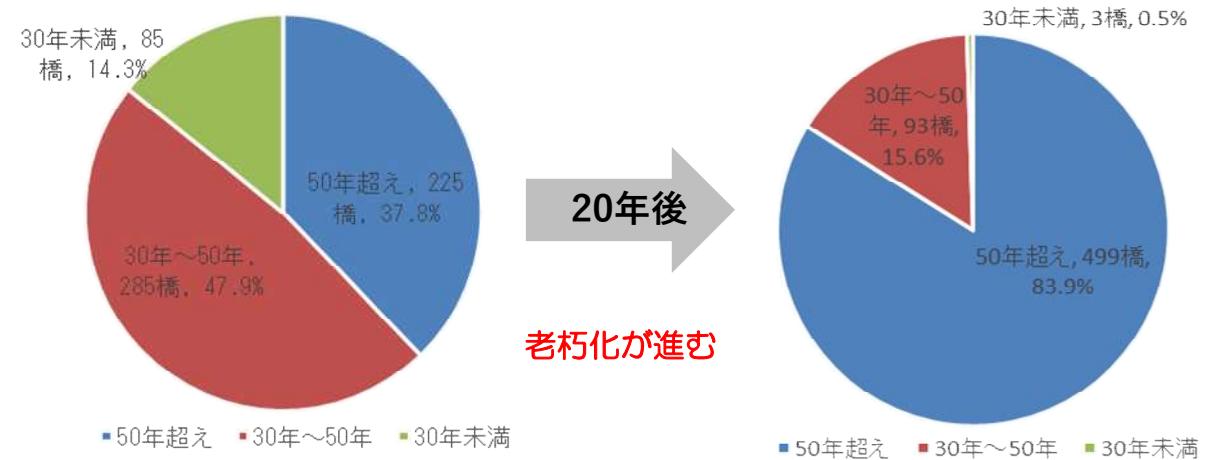
橋長については、595橋の内442橋（74%）が15m未満の橋梁です。
 橋梁種別については、595橋のうち338橋（57%）がRC橋です。

橋長と橋梁種別



長寿命化修繕計画の目的

南丹市は、橋梁の老朽化に対応するため、計画的かつ予防的な修繕へと転換し橋梁の長寿命化を図り維持更新費用の縮減と平準化を行うことを目的としています。



長寿命化修繕計画による効果

長寿命化修繕計画を策定する595橋について、今後50年間の事業費を比較すると、従来の対症療法型が273億円に対し、長寿命化修繕計画の実施による予防保全型が50億円となり、コスト縮減効果は223億円となります。

